

「東北地区国立大学法人等技術職員連絡協議会準備会」参加報告

鈴木徹

1. はじめに

東北地区国立大学法人等技術職員研修会は、東北地区にある4つの国立大学（東北大、岩手大、秋田大、山形大）がホスト校となって開催される国立大学および国立高専に所属する技術職員の研修会である。

今年度は岩手大学にて開催されたが、ホスト校の呼びかけで「連絡協議会準備会」なるものを開催するので、技術職員組織のリーダーには是非とも参加して欲しいと連絡があり、内容について連絡がなく、はっきりしない会合であったが、8月頃時点で本校以外の東北地区他高専の多くの技術長が参加の意向を示していたこともあり参加申込してあった。実際に参加できるかどうかは予算次第の面もあったが、何とかやり繰りが付いたため参加することとした。

2. 開催日程と場所

平成27年9月17日（木）

岩手大学工学部

3. 参加報告

参加校は以下の通りであった。

- ・東北大学
- ・弘前大学
- ・秋田大学
- ・山形大学
- ・岩手大学（ホスト校）
- ・仙台高専名取キャンパス
- ・本校

の12名であった。残念ながらそれ以外の高専からは参加がなかった。

会の趣旨についてホスト校から説明があり、内容を掻い摘まむと、折角年に一度東北地区の

国立大学、高専技術職員研修会を開催しているのだから、この機会を利用して各校の技術職員組織のトップが一堂に会して、様々な情報交換や、この研修会をより良くしていくために意見交換しましょう、ということだった。

国立高専の場合、以前から東北地区高専では同様のことを実施しているが、国立大学ではやっていない、ということ、岩手大学からの提案なのであった。

この提案に対し、参加各校から賛同があり実施に向けて、来年度の東北大学ホストの研修会の際、正式提案しその際に決定事項にしたい、今回の会合はそのための準備会として位置づけたい、との岩手大学のとりまとめがあり了承された。

会の中でどういったことを協議していくかについては特段制約があるわけではなく、協議題がある学校が発議し協議するという形になるようであった。

我々高専所属職員にとっても、規模・予算共に大きい大学さんと情報交換できることは、ある意味参考になり、ある意味まったく参考にならない（規模が違いすぎるが故）部分もあるだろうが、東北地区の国立高等教育機関同士の連携を深めていくことは意義があろう。